

前回までの議論の整理

主な論点・意見		対 応
1	馬車を走らせるなど、ポッポの道をもう少し観光に活用できないか。	P37の「(20)旧狩勝線の魅力PR」で、旧狩勝線の魅力をPRし、ポッポの道の集客につなげる旨を記載していますが、「旧狩勝線を利用した乗馬体験の実施も検討します」と記載を追加しました。
2	自然をどうやって体験させるのが課題。鹿追町の犬ぞりなど新しい体験の仕掛けがあれば観光客は来る。	P37の「(18)自然豊かなフィールドにおける、ラフティングや、カヌー、乗馬やMTB、冬はスノーアクティビティの充実」で、大自然を体験する多彩なアクティビティの充実を図る旨記載しています。
3	町民がふるさとを愛する気持ちをいかに表現するか。町民との連携も観光対策の一つの大きな柱。	P39に地域への誇りと愛着の醸成についての個別施策を記載していますが、「②町民との協働による観光地域づくり」に「(43)観光資源の整理」を追加し、町民との協働により町内の観光資源を再整理する旨を記載しました。
4	観光協会の独立ということは、毎年焼き直しでやってきたことを、営業努力によってもっと強力に進めるという期待がこもっている。これまでの仕事を精査して、本来の観光協会の仕事に特化することが大事。法人化するということは、社長が先頭に立って下を引っ張っていくということ。	P46以降で「日本版DMO」の考え方が参考になると記載していますが、まだ認識が不十分だと考えられます。専門人材やノウハウも不足していることから体制を整えていく必要があることに加え、収益事業を行っていく必要があることから、協会員皆平等ではなく、できるところからやっていくという考え方を持つことや、合意しなければいけないことと合意できなくてもしょうがないことを分けて考えることなど、P50に記載しているスケジュールの中の法人化の意見交換の中で認識を深めていくことが重要です。
5	民泊はどのように進めていけば良いか。	P39に「(42)民泊の推進」を記載しています。来年民泊新法が施行されるのを受け、現在制度の整備が行われているので、制度を勉強しながらあるべき姿を模索します。
6	狩勝高原園地再整備について、計画に反対ではないが、植栽など見直しが必要。	P35に「(1)狩勝高原園地再整備」を記載していますが、適宜議論しながら検討を進めており、植栽等についても今後見直しも考えられます。